

[022] 語文研究表紙奥付等

<http://hdl.handle.net/2324/10247>

出版情報：語文研究. 22, 1966-10-31. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：



編集後記

- 記録破りの暑さもようやく過ぎ、落ち着いた読書の候となった。予定より又々遅れてしまったが、ここに第二十二号をお届けする。
- 今回は、ごらんの通り国語学小特集の形となったが、加えて、横山正氏が新資料紹介の玉稿を、寄せられたのは、望外の喜びであった。国語学の方は、矢野・原の各氏がそれぞれの分野を掘り下げ、さらに大学院（修士過程）の迫野・中島両氏は研究成果の一部分について試論を寄せられた。
- すでにお気づきのことと思うが、第二十号以来、印刷所を変えるのといっしよに、写真植字方式を採用している。印刷期間が短いのと、紙面が鮮明な利点のある反面、校正は技術的にかなり不自由なので御投稿の際には、なるべく完全原稿をお送り頂きたい。
- 早くから御投稿頂きながら、紙数の制限の為に次回に回させて頂いた原稿が一・二あった。申しわけないことである。その代りに、次号はせいぜい早く刊行に漕ぎつけたい。また、せつかくのこうした機運を積極的に生かしてゆく方法も別に考えるべきことであろう。